

EⅢ 論文

「未遂」と「未婚」

— 否定の接頭辞「未」の意味と構造 —

木村 泰介

要 旨

否定の接頭辞「未」の意味と構造について、日本語構造伝達文法の時間モデルと構造モデルとを用いて考える。

アスペクトとしては、「未遂」は「準備などを含め、何らかの作業が始まっているものの、まだ完遂していない」、つまり「完了に至っていない」を示し、「未婚」は「まだ結婚するに至っていない」、つまり「開始まえ」の意味である。「未遂」はアスペクトしか表さないが、「未婚」はアスペクトと事象を表す。「未」をこの観点から6種類に分ける。さらに、漢語としての「未」の構造上での位置を示し、さらに「未」の訳語となる本来の日本語である「まだ～ない」の構造を構造図で示した。

キーワード：否定の接頭辞、アスペクト、時間モデル、構造モデル、格関係

1 「未」の意味を時間モデルで考える

1.1 検討の範囲

検討の範囲を松村編『大辞林 第三版』(2006)に収録されている以下の語群とした。

表1 検討の語 (下線は表中に重複のある語を示す。)

見出し語「未」に利用例として掲載されている語 (p.2425)

未開, 未開拓, 未刊, 未完, 未決, 未婚, 未熟, 未遂, 未成年, 未然, 未曾有, 未知,
未定, 未納, 未発表, 未満, 未明, 前代未聞, 未来, 未了

個別の見出し語として掲載されている語 (pp.2425-2466「み」の項)

未解決, 未開発, 未学, 未確定, 未確認, 未完成, 未経験, 未見, 未公開株,
未墾, 未済, 未晒し, 未産婦, 未収, 未習, 未就学, 未生, 未詳, 未処分, 未処理,
未進, 未成, 未製品, 未説, 未然, 未組織, 未達, 未達成, 未談, 未知, 未着,
未到, 未踏, 未登峰, 未納, 未配, 未発, 未発表, 未払い, 未病, 未分, 未亡人,
未明, 未聞, 未訳, 未来, 未練

この辞典を採用したのは、一般的な語を扱っており、採録語数も適度であり、版があまり古くない、という理由による。

1.2 「未」に後続する語

「未」は接頭辞として、直後に別の語を伴い、一つの単語を形成する。直後の語のほとんどは、動作や状態を表す漢語であり、音読みのまま使われている。

「未晒し」「未払い」の2語では、和語動詞の「晒す」「払う」が連用形の名詞的用法で使われている。名詞的用法ではあるものの、意味は動作を表している。

1.3 「未」は「まだ～ない」の意味

「未」は、「まだ～ない」の意味を持つ。

- ① まだ直後の動作や状態が実現していない。 例：「未開」
- ② まだ直後の動作や状態の時が来ない。 例：「未来」
- ③ いまだ直後の動作や状態でない。 例：「未完」

1.4 時間モデル

日本語構造伝達文法の時間モデルではテンスとアスペクトの関わりを以下のような図で捉えている。「言及線」を使う2桁数表示法である。

図では、動作の結果状態の残っている状況（位置40）で、局面2（動作の進行中）に言及していることを表している。言及線は、 $40+2=42$ で [42] となり、「していた」という表現になる。

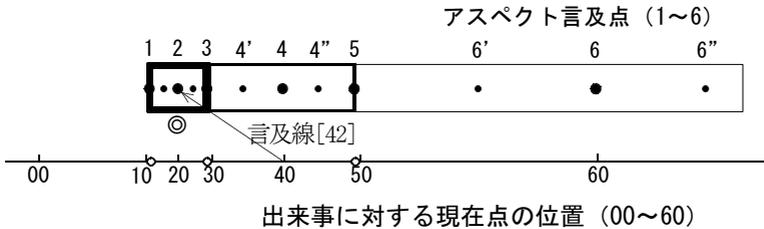


図1 テンスとアスペクトの関わり (今泉:2000 p.155 図17-1)

この図のアスペクトを表す部分だけを取り出して、分かりやすく、次のように示す場合もある。



この図は「～ている」などの意味を整理・把握するのに用いられる。構造伝達文法では、「～ている」は、次のいずれにおいても用いることができる、としている。

「進行中」、「結果状態継続中」、「記憶継続中」

つまり、動作の開始から忘却まで「～ている」が使用できる、としている。

1.5 「未」の意味を時間モデルで考える

アスペクトとしては、「未」は、直後の動詞が表す事象の実現前を表す。

その実現前として、動詞によって、局面3（完了）の前を想起しやすいものと、局面1（開始）の前を想起しやすいものの2種類がある。

「未遂」 例えば「未遂」の「遂」は「やりとげる」の意味である。どんな行為かは示していない。何らかの行為の完了を意味するだけである。したがって、この語はアスペクトのみを表す語といえる。「未遂」は、「遂」に至る前、すわなち局面3（完了）の前を想起する。下図の網かけ部分である。これを「未完了型」とする。

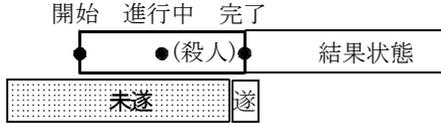


図3 「未遂」 未完了型

実際には「殺人未遂」の「殺人」のように、事象を補うことが多い。「未遂」にはいくつかの段階がある。殺害の計画を立てる段階、現場でまさに殺害に及ぼうという段階、ナイフで刺すなどの行為に及ぶ段階もある。しかし、「未遂」では、行為に及んでも、殺害完了（死亡）までには至らない。

「未完成」 未完了型でも、「未完成」のようなものもある。これは何かを始めたことが前提になっている。「小説が未完成だ。」と表現するときは、執筆には着手している。これを「〈開始後〉未完了型」とする。

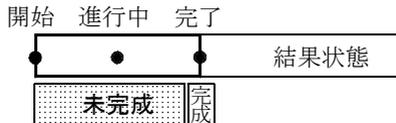


図4 「未完成」 〈開始後〉未完了型

「未婚」 一方、「未婚」の「婚」自体はアスペクトを表す語ではないが、「未婚」は局面1（開始）の前を想起する。「未婚」は、「結婚」する前であるので、これを「未開始型」とする。下図の網かけ部分が「未婚」を示している。



図5 未婚 未開始型

ただし、「婚」は瞬間動詞（結果動詞）なので、開始と完了をほぼ同時とみるとよいので、下の図示の方が適切である。（「結婚している」は結果状態を表している。）

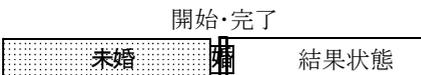


図6 未婚 未開始型 (適切表示)

以上から、分かることは次のことである。これを表2のようにまとめた。

- ① 動詞にはアスペクトのみを表すものがある。
- ② 「未」には「未開始型」と「未完了型」がある。
- ③ 「未完了型」には「<開始後>未完了型」もある。

表2 分類表

分類	未完了		
	未開始型	未完了型	
動詞意味	<開始前>未完了型	<開始後>未完了型	未完了型
動詞の意味はアスペクトのみ A	<p>A1</p> <p>「未然」「未発」</p>	<p>A2</p> <p>「未成」「未達成」等</p>	<p>A3</p> <p>「未遂」</p>
動詞の意味は事象とアスペクト B	<p>B1</p> <p>「未確認」「未見」「未就学」「未詳」「未知」「未来」等</p>	<p>B2</p> <p>「未熟」「未製品」「未明」「未練」等</p>	<p>B3</p> <p>「未開」「未開拓」「未決」「未登峰」「未訳」等</p>

A1～B3のそれぞれを検討してみる。

- [A1] 「事故は未発のうちに防止する。」の「発」は「開始」を表している。しかし、何の開始かは示していない。「未発」は「開始まえ」の局面（アスペクト）のみを示す。「未然」も同じである。
- [A2] 「作品は未完成だ。」の「未完成」は、開始したものの「完了」に至っていないというアスペクトのみを表す。「未完」、「未成」、「未達」、「未達成」、「未了」も同様である。
- [A3] 「強盗は未遂に終わった。」の「未遂」は、事象開始まえの準備などを含めて考えるが、事象が「完了」には至っていないというアスペクトのみを表す。
- [B1] 「彼は未婚だ。」の「未婚」は、「婚」という事象（具体的内容を持つ）が生起するよりまえの局面（アスペクト）を表す。同様のものとして次の語がある。
 「未開発」、「未確認」、「未刊」、「未経験」、「未見」、「未公開」、「未墾」、「未晒し」、「未産婦」、「未収」、「未習」、「未就学」、「未生」、「未詳」、「未処分」、「未処理」、「未成年」、「未説」、「未組織」、「未談」、「未知」、「未着」、「未定」、「未到」、「未踏」、「未配」、「未発表」、「未払い」、「未病」、「未分」、「未満」、「未来」

※「未曾有」、※「前代未聞」もここに含まれる。(※印はページ下参照)

- [B2] 「事故は未明に起きた。」の「未明」は、「明」(明るくなる)という事象(具体的内容を持つ)を開始したものの、「完了」に至っていないという局面(アスペクト)を表す。「未学」、「未熟」、「未製品」も同様である。なお、「未亡人」の「未亡」は、夫の逝去時が開始時であると考えられる。「未練」は、心を練磨する必要の生じた事象の発生時が開始時であると考えられる。
- [B3] 「ここは未開の社会だ。」の「未開」は、「開」への道を進んでいるかもしれないが、完了していない。「未解決」、「未開拓」、「未確定」、「未決」、「未登峰」、「未納」、「未訳」も同様である。

1.6 語の判定

上の見方に従って、表3の結果を得た。ただし、判定は筆者による。語の解釈により、判定の異なる場合もありうる。

表3 語の判定 (五十音順)

No.	語	型	No.	語	型	No.	語	型	No.	語	型
1	未開	B3	16	未婚	B1	31	未成年	B1	46	未納	B3
2	未解決	B3	17	未済	B3	32	未製品	B2	47	未配	B1
3	未開拓	B3	18	未晒し	B1	33	未説	B1	48	未発	A1
4	未開発	B1	19	未産婦	B1	34	未然	A1	49	未発表	B1
5	未学	B2	20	未収	B1	35	※未曾有	B1	50	未払い	B1
6	未確定	B3	21	未習	B1	36	未組織	B1	51	未病	B1
7	未確認	B1	22	未就学	B1	37	未達	A2	52	未分	B1
8	未刊	B1	23	未熟	B2	38	未達成	A2	53	未亡人	B2
9	未完	A2	24	未生	B1	39	未談	B1	54	未満	B1
10	未完成	A2	25	未詳	B1	40	未知	B1	55	未明	B2
11	未経験	B1	26	未処分	B1	41	未着	B1	56	※前代未聞	B1
12	未決	B3	27	未処理	B1	42	未定	B1	57	未訳	B3
13	未見	B1	28	※未進	-	43	未到	B1	58	未来	B1
14	未公開	B1	29	未遂	A3	44	未踏	B1	59	未了	A2
15	未墾	B1	30	未成	A2	45	未登峰	B3	60	未練	B2

※35「未曾有」という語には「曾(「かつて」の意)」が含まれている。これは梵語の *adbhuta* (「いまだかつてあらず」の意) が中国語に訳され、そのまま日本語に取り入れられた熟語である。熟語の中に「かつて」を含むことでは、※56「前代未聞」(かつて聞いたことがない) に似ている。「前代未聞」にならえば、「未曾有」は「前代未育」であろうか。いずれもB1であるが、他のB1と異なるのは、発話時に「有、聞」が実現している可能性があることである。

※28「未進」は古語なので、割愛する。

2 「未」の構造

2.1 構造モデル

日本語構造伝達文法では、文法的要素を形態素のレベルで抽出し、各形態素を実体、属性、格詞などに分類している。実体と属性は論理関係を持ち、それらの論理関係が格詞で表現される。各形態素の歴史的経緯を踏まえて、音としては表れていない部分も勘案しつつ、構造を構築する。この構造を「構造モデル」と呼んでいる。このモデルを用いて日本語の言語現象を説明する。

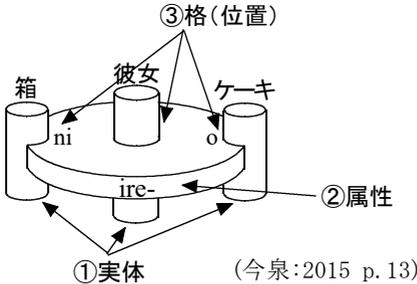


図7 「彼女がケーキを箱に入れる」の構造

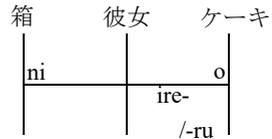


図8 左の構造の簡略図示

2.2 「未婚」の構造

「未婚」など「未～」の表現は、実際には「未婚である(未～である)」などと使われる。「彼の1未婚である」を例に取れば、その構造は次のようになる。簡略図で示す。



図9 彼の1未婚である

しかし、これでは「未婚」が1語として扱われている。「未」と「婚」の論理関係はどうなっているのだろうか。

「未」も「婚」も、本来の日本語ではなく、中国語から取り入れられた外来語である。外来語は日本語に入ると名詞になるのであるから、「未」も「婚」も名詞である。この2つの名詞の論理関係は、「婚が未にある」として理解できる。それならば、構造は図10のようになる。



図10 婚が未にある



図11 未婚

この構造の「未」と「婚」を第4修飾法の「+」でつなげば、「未+婚」(「未婚」)となる(図11)。(今泉:2003 p.204)

この図11を図9に組み込めば、図12となる。

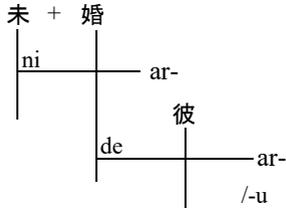


図12 彼₀1未婚である

2.3 「未払い」の構造

「未婚」の「婚」は外来語としての名詞である。では、「未払い」の「払い」のような、日本語の動詞から作られた名詞の構造はどうなるのだろうか。

「払う hara(w)-u」は、動詞であるから、図13のような構造になる。

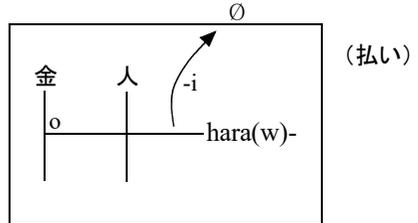
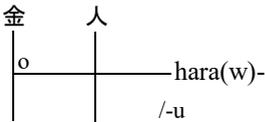


図13 人₀1金を hara(w)-u

図14 「払う hara(w)-u」が「払い hara(w)-i」に

「払う hara(w)-u」が、第2修飾詞 -i で無名包含実体を修飾して、名詞ようになる。このことは、図14のように示せる。

「未払い」は、「未婚」同様、「払い」が「未」にあることなので、次のような構造となる。

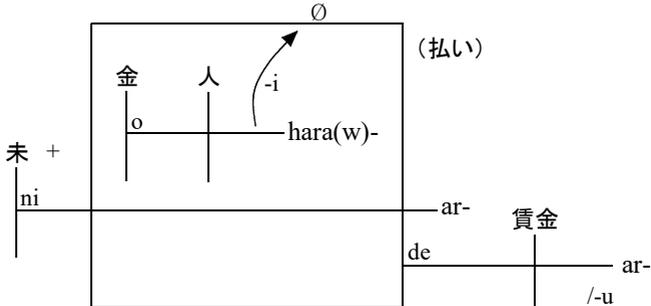


図15 賃金₀1未払いである

2.4 「彼の₁まだ結婚していない」の構造

漢語「未婚」は、本来の日本語の表現法で示せば「まだ結婚していない」となる。これは、漢語「未婚」の意味を示したものと見える。

では、「彼の₁まだ結婚していない」の構造はどうなっているのだろうか。この構造を考えるためには、形態素に分析しなければならない。形態素に分析すると、次のようになる。

(1) 彼-₀₁ まだ-₀₂ 結婚-o s-i=te-₀=i-na.(k)-i

[まだ]

現代語で「まだ」という語は、国語文法では副詞である。しかし、構造上には「副詞」と呼ばれる要素は存在しない(今泉:2005 p.16, 今泉:2020 p.108)。では、「まだ」は構造上にどう表せばよいのだろうか。

大野ほか編『岩波古語辞典』では「まだ」について、こうある。

まだ【未】〔副〕《イマダの転》

つまり、「まだ」という語は元は「イマダ」であった。「イマダ」は「いまだに(「今でも」の意味)」の形で格詞「に」を伴う。ということは「いまだ」は名詞である。また、「いまだし(「まだその時でない」の意味。「まだし」もある。)」の形で形容詞となることもある。形容詞は名詞が基になってできた語である。

「いまだ」は歴史的に名詞であり、「いまだ」から「い」の消えた「まだ」も名詞である。構造伝達文法でも実体として扱うのが妥当と考えられる。

ただし、名詞とはいっても、「まだ」に格詞「に」がついた形はない。これは、「に」という格詞でわざわざ示さなくとも、属性との論理関係が、自明だからである。構造伝達文法では、属性との論理関係があつて、それが自明であり、それを格詞で表す必要のない場合、格詞を「 \emptyset_2 」で表す。

(1)の「まだ」の直接の属性は、「結婚する」ではなく、「(結婚してい)ない」であり、「まだ₀₂ ~ない」の論理関係である。この論理関係は、「今という時においてもなお実現していない」ということである。

今泉:2020 p.98 に、「(8) 彼の₁は、絶対(に)言わない。」の図がある。図16として下に引用しておくが、これにならえば、「まだ₀₂ ~ない」は図17、図18のようになる。

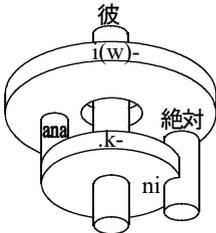


図16 彼の₁は、絶対(に)言わない

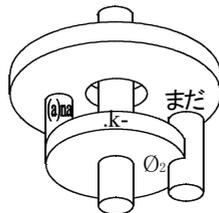


図17 まだ~ない

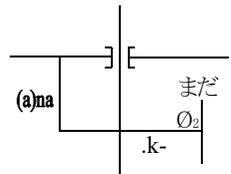


図18 簡略表示

[結婚する]

「結婚する」は動詞のように考えられているが、実はこれは形態素の複合したものである。「結婚」という名詞が「する」という動詞の「を格」に置かれている。

今泉:2015 p.12に「彼-ga 日記-o kak-u」の図がある。図19として引用したが、これにならえば、「彼-ga 結婚-o sur-u」の図は、図20、図21となる。

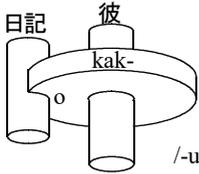


図19 彼-ga 日記-o kak-u

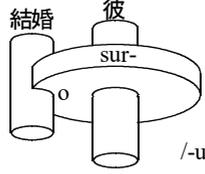


図20 彼-ga 結婚-o sur-u



図21 簡略図

それで、構造をよりよく反映するためには、「を」を明示して、「結婚をする」と描写した方がよいことになる。(動詞が sur- の場合は、描写のときに「を」の省略が起こりやすい。必ず省略する場合もある。例: 勉強-o sur-u, 愛-o sur-u, 案-o sur-u 案ずる)

[ていない]

(1') 彼-0₁ まだ-0₂ 結婚-o s-i=te-0=i-na.(k)-i (1)の再掲

この「結婚する」には、さらに「ている」が付いている。これが「ない」で否定されている。「ている」の構造は図22のように示すことができる。その否定の「ていない」の構造は図23のように示すことができる。

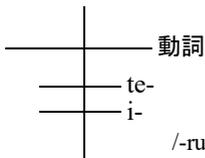


図22 「ている」の構造

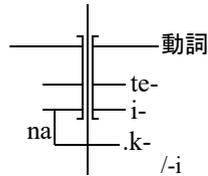
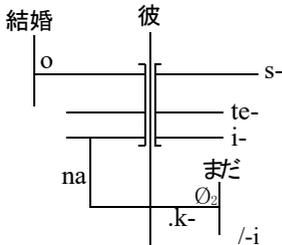


図23 「ていない」の構造

[彼0₁まだ結婚していない]

つまり、「彼-0₁ まだ-0₂ 結婚-o していない s-i=te-0=i-na.(k)-i」の全体の構造は、図18と図21、図23を合成すればよい。

図24 彼-0₁ まだ-0₂ 結婚-o していない s-i=te-0=i-na.(k)-i

動詞「する s-」の語幹は3つある。
s-, si-, s;ur- である。
(今泉 2009:120 表B8-5)

2.5 改めて「未遂」「未婚」の構造について

ここで改めて、「未」の構造についてまとめておきたい。

「未遂」「未婚」にある「未」も「遂」も「婚」も、中国語ではともあれ、ひとたび日本語に外来語として取り入れられれば名詞となる。日本語ではどれも名詞なのであるから、それらだけでは関係が持てないので、関係づける動詞が必要となる。

「未遂」なら「未」と「遂」を関係づける動詞があるはずであり、「未婚」なら「未」と「婚」を関係づける動詞があるはずである。

その動詞として考えられるのは「ある ar-」である。「遂」と「婚」が主体であり、「未」は ni 格にある。

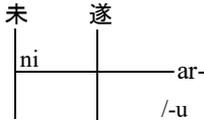


図25 遂の1未にある



図26 婚の1未にある (図10の再掲)

この構造は「遂-01 未-ni ar-u」「婚-01 未-ni ar-u」という関係を表している。

ここにある第1主格詞 -01 を第2主格詞 -ga に取り替えて、こう表現することもできる……「遂-ga 未-ni ar-u」「婚-ga 未-ni ar-u」。

描写法を変えれば、「未-ni ar-u 遂」(「未-n ar-u 遂」), 「未-ni ar-u 婚」(「未-n ar-u 婚」)ともなる。

3 まとめ

以上、否定の接頭辞「未」について、日本語構造伝達文法の「時間モデル」「構造モデル」を基に、意味と構造を検討した。

「時間モデル」を用いることで、視覚的に、明確に「未」の意味をアスペクトの観点から検討することができた。動詞がアスペクトのみを表す場合をAとし、事象も表す場合をBとした。「未」を用いた熟語のうち、「開始に至らない」状況を表す語群を1型とし、「開始はあるが、完了に至らない」状況を表す語群を2型とし、単に「完了に至らない」状況を表す語群を3型に分類した。

また、「構造モデル」を用いることで、外来語としての「未」という漢語が名詞として取り入れられていること、その名詞が格関係で属性に関わるということを示せた。「未」を日本語本来の表現に訳した「まだ～ない」の構造も示せた。

4 今後の課題として

さまざまな漢語を「外来語」として日本語に名詞の形で取り込む仕組みは、おそらく欧米の言語を取り込むときでも同様であろう。「ノンシュガー」や「アンチ巨人」など、いわゆる和製英語の類も、同じような現象として説明ができるのではないかと考えている。

また、日本語では「面会」という語は中国語では「会面」と表現するという。「敗戦」は「戦敗」になるというが、こうした現象も元の中国語と日本語に取り入れられた「外来語」の認識のされ方、論理の組み立て方の違いが表れたものではないかと考えている。

今後こうした現象についても考察を進められればと思う。

主要参考文献

- 今泉 喜一 2000 『日本語構造伝達文法』 揺籃社
 今泉 喜一 2005 『日本語構造伝達文法 [改訂5]』 揺籃社
 今泉 喜一 2009 『日本語態構造の研究 -日本語構造伝達文法 発展B-』 揺籃社
 今泉 喜一 2014 『主語と時相と活用と -日本語構造伝達文法・発展C-』 揺籃社
 今泉 喜一 2020 『日本語のしくみ(5) -日本語構造伝達文法 W-』 揺籃社
 大野 晋ほか編 2000 『岩波 古語辞典 補訂版』 岩波書店
 小椋 秀樹 2020 「近代における字音接頭辞「非・不・未・無」」 『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』
 田村 泰男 2014 「和語系接頭辞と漢語系接頭辞」 『広島大学国際センター紀要 第4号』
 竝木 崇康 2014 「接辞から単語への変化：英語の場合と日本語の場合」 『大みか英語英文学研究 第18号』
 野村 雅昭 1973 「否定の接頭語「無・不・未・非」の用法」 『国立国語研究所論集 四 ことばの研究』
 松村 明・編 2006 『大辞林 第三版』 三省堂

木村泰介さんの「研究者紹介」は『日本語構造伝達文法・発展D』の p.46 にある。

コラムE3

今泉喜一

国語文法は裸の王様？

国語文法を考えるときに、「裸の王様」を思い出す。誰もが知るアンデルセンの童話である。

[裸の王様]

ある王様が2人の詐欺師にだまされて、「おろか者には見ることのできない服」を作りました。王様はこの服を着てパレードを行いました。すると、見物人たちは、おろか者と言われないうために、美しい服だとほめそやします。しかし、ある子どもが、「王様は裸だ」と言うと、人々の間に「やっぱり」という思いが伝わり、みな「王様は何も着ていない」と言うようになりました。王様も、自分のだまされていたことに気づきましたが、パレードをやめるわけにはいきませんでした。

この物語は、周囲にいる人が、的確な助言ができない／しないと、王様も自分を見失い、ついには大恥をかく、ということを書きたいのである。

[日本人も裸の王様？]

実は、日本人は、王様（国語学者）の言うまに信じて、この大恥をかいているのである。どこか変だと思いつつも、自分をおろか者と言われないうにするために、王様の着ている服をたいそう美しい服だとほめたたえているのである。

[国語辞典を開こう]

国語辞典を開いてみれば、すぐに気がつくことである。動詞の扱い、たとえば、「読む」という動詞の扱いであるが、「よ・む」というふうに載せてある。意味は、「よ」が語幹で、「む」が語尾ということである。そんなばかな扱いがあるものか。

a) よ・む b) yom-u

a) と b) では扱いが全然違う。当然 b) が正しい。では、なぜ a) があるのか。これは、日本人が文法を「かな」で考えてきたからである。科学的根拠はない。日本人はずっと非科学的なことをやってきたのである。裸だったのに、自分がおろか者だと言われないうために、とても美しい服を着ていると思いつんで来た。

[日本人は？]

こんな大恥をかいているのに、日本人は、2～3の小声で主張する人を除いては、誰も、「王様は裸だ」と言う人がいなかった。

国語辞典は全部 a) で扱っているのだから、国語辞典の大々的な修正が必要となる。日本人は賢いから、修正はすぐにやれると思う。君子豹変。

しかし、日本人は、案外このまま修正しないでいくかもしれない。もし、そうなら、日本人をどういう人間と考えればよいのだろうか。分からない。裸の王様？